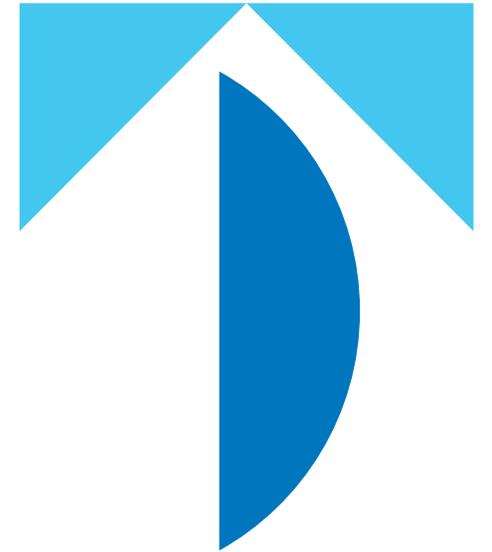


# 2026 → 2027



## Toyama Prefectural Museum of Art & Design

### 富山県美術館 (TAD) 展覧会スケジュール

2026.4 - 2027.3

#### 開館時間・休館日

	利用時間	休館日	料金
美術館	9:30~18:00	・毎週水曜日 (祝日除く) ・祝日の翌日 ・年末年始	・コレクション展: 6/30まで:一般300円(240円) 7/1から:一般350円(280円) ※( )内は20人以上の団体料金 ・企画展:展覧会により異なります。 ・企画展観覧料でコレクション展もご覧いただけます。
オノマトへの屋上	8:00~22:00	12月1日~3月15日	
駐車場	8:00~22:30		最初の1時間330円 以降30分毎に110円加算。 ※美術館利用の方、2時間無料 (事前精算機をご利用ください)

※メンテナンスや展示替え作業等のため臨時休館する場合があります。  
※季節やイベント等に応じて、臨時開館や延長開館する場合があります。

- ・次の方は、コレクション展・企画展ともに観覧無料
  - 1) 児童、生徒 (小・中学生、高校生など)
  - 2) 学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者 (観覧料免除申込書が必要です)
  - 3) 各種手帳またはマイロIDをお持ちの障がい者の方の観覧 (付き添いは手帳をお持ちの方1人につき1名まで無料)
- ・大学生と70歳以上の方は、コレクション展が観覧無料 (大学生の対象は、大学、大学院、短期大学、高等専門学校(4学年以上)、専修学校(専門課程)、専修学校(一般課程の19歳以上)、通信制大学、放送大学です)
- ・詳しくは富山県美術館ホームページでご確認いただき、美術館へお問い合わせください。
- ・ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願ひ」をご確認ください。

#### アクセス

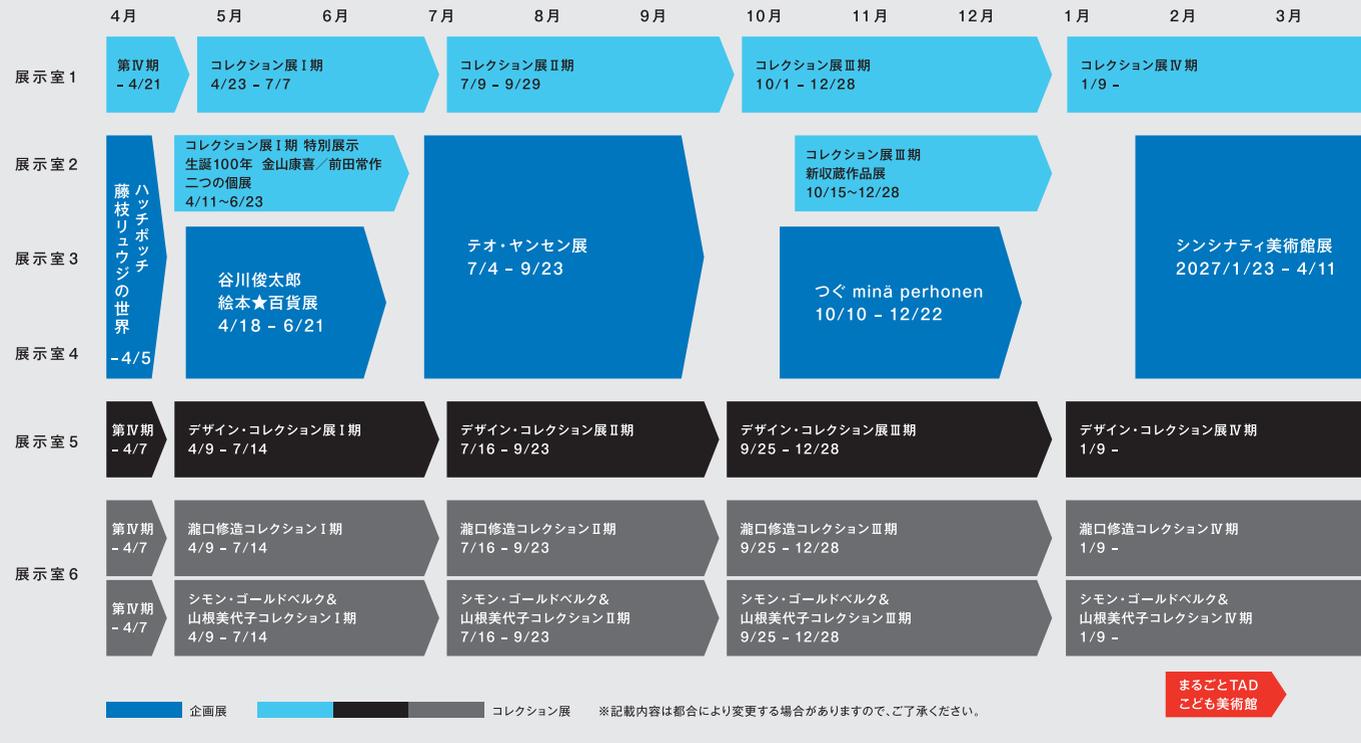
- 富山駅北口(あいの風とやま鉄道改札側)から 徒歩約15分/タクシー約3分  
バス:1番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ
- 富山空港より タクシー 約20分(約9km)
- 北陸自動車道より 自動車 約15分(富山I.C.から国道41号経由)



#### 富山県美術館 (TAD)

TAD: Toyama Prefectural Museum of Art and Design  
※Toyama Art Designの略文字をとり、TADと略称しています。  
〒930-0806 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内)  
TEL:076-431-2711 FAX:076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>

## スケジュール



まるごとTAD ことも美術館

## コレクション展

**2階 展示室1 コレクション**  
約3か月に1度の展示替えて、自慢のコレクションを多彩に展示。常に新鮮な出会いが楽しめます。

**生誕100年 金山康喜 / 前田常作 二つの個展**  
2026年度は、4/11~6/23の間、コレクション展を展示室2まで拡張し富山県にとって重要な2人の画家、金山康喜と前田常作の代表作を展示します。生誕100年の節目となるこの機会に、改めて両者の画業を振り返ります。



撮影:大辻清司《番童の瀧口修造夫妻》1975年



倉俣史朗《引き出しの家具》1967年 撮影:柳原良平 ©Kuramata Design Office

**3階 展示室5 デザイン・コレクション**  
ポスターと椅子を中心としたデザイン・コレクション。国内外のすぐれたポスターとともに、デザイン史に残る名作椅子が並びます。ポスターは、大型ディスプレイでも自由に楽しめます。



ルネ・マグリット《真実の井戸》1963年



パブロ・ピカソ《座る女》1960年 ©2026-Succession Pablo Picasso - BCF(JAPAN)

**3階 展示室6 瀧口修造コレクション**  
**シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション**  
富山県出身の美術評論家・瀧口修造の部屋では、ミロやデュシャンなど親交を結んだ作家たちから贈られた作品などが並びます。また、富山を愛し晩年を過ごした天才ヴァイオリニスト、ゴールドベルクが生前に集めた20世紀の優品を展示します。

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

富山新聞復刊80年記念

## 谷川俊太郎 絵本★百貨展

4月18日(土)－6月21日(日)

一般：¥1,100 (¥850)

大学生：¥550 (¥420)

一般前売り：¥850

※( )内は20名以上の団体料金

2024年11月、92歳で亡くなった詩人の谷川俊太郎は1960年代以降、さまざまな絵描きや写真家と200冊にも及ぶ絵本を作ってきました。ことばあそび、世界のありようを認識する手がかり、ナンセンスの楽しみ。そして生きることの面白さや大変さ、尊さ、死や戦争までをテーマに、絵と言葉による表現に挑んでいます。バラエティ豊かな絵本に共通するのは、読み手に対する谷川俊太郎の希望の眼差しです。展覧会では約20冊の絵本を取り上げ、原画のみならず、アートディレクター、映像作家、建築家といった多彩なクリエイターたちによる絵や言葉が動き出す映像、朗読や音、インスタレーション作品などを展示します。会場内には、谷川作の100を超える絵本を自由に閲覧できるコーナーも。また、富山会場独自のミニ企画展示として、谷川俊太郎と富山の縁の一端をご紹介します。「百貨店」のように様々なコンテンツで表現された、谷川俊太郎の絵本の世界をお楽しみください。



左上:「もこもこもこ」(絵・元永定正) 文研出版 1977

左下:「かないくん」(絵・松本大洋) ほほ日 2014

右:東京会場 展示風景 (撮影:高橋マナミ)



## テオ・ヤンセン展

7月4日(土)－9月23日(水・祝)

一般：¥1,600 (¥1,400)

大学生：¥1,100 (¥900)

一般前売り：¥1,400

※( )内は20名以上の団体料金

オランダの造形作家、テオ・ヤンセン (1948-) は、オランダの海面上昇問題を解決できないかという発想をもとに、風を動力源として砂浜を歩く「ストランドビースト」※を生み出しました。プラスチックのチューブを骨格とするストランドビーストは、生き物のように進化を遂げ、歩行するだけでなく方向転換などの機能を備えるなど、様々な環境に適応するべく進化を続けています。大学で物理工学を学んだヤンセンが生み出したビーストの動きは滑らかで、まるで生きもののようなのです。

本展では、芸術と科学を融合させ、「現代のレオナルド・ダ・ヴィンチ」とも称されるヤンセンが生み出した様々な形態のビーストと、その発想の過程やビーストの進化を、映像、スケッチ、パーツなどの資料とともに紹介。さらに会期中には、ストランドビーストが実際に動く様子をご覧いただける「リ・アニメーション」を行います。ヤンセンが創造した、ビーストたちが躍動する多様な世界をお楽しみください。

※ストランドビースト (Strandbeest) =  
オランダ語のstrand (砂浜) とbeest (生き物) を合わせたヤンセンによる造語。



アニマリス・ブラウデンス・ヴェーラ 2013年 ©Media Force

## つぐ minä perhonen

10月10日(土)－12月22日(火)

一般：¥1,500 (¥1,150)

大学生：¥750 (¥570)

一般前売り：¥1,150

※( )内は20名以上の団体料金

ミナ ペルホネンは、デザイナーの皆川明 (1967-) が1995年に創設した「minä (ミナ)」を前身とするファッション・テキスタイルのブランドであり、2025年に創立30周年を迎えました。流行に左右されず、長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をテーマとし、熟練の技術者でもある職人たちとの対話と試行錯誤を重ねながら、オリジナルの生地から製品を生み出すという、独自の物づくりを続けています。「せめて100年続くブランド」という思いでファッションから始まったミナ ペルホネンの活動は、インテリアをはじめ食や宿など、私たちの生活全般へと広がっています。展覧会のタイトルとなっている“つぐ”という言葉には、水面に起こる波紋のようなイメージが託されています。生地の生産地をはじめとする物づくりの世界や、人々の暮らしとの関係は、まるでミナ ペルホネンの活動という雫が、共鳴する人々を繋ぎ、手技を生み、新たなクリエイションへとその波紋を広げているようです。本展は、全国巡回の企画展です。洋服やプロダクトのほか、オリジナルのテキスタイルや原画などを通してミナ ペルホネンの仕事や思想に触れる会場。そこに身を置くことで、観る人それぞれが様々な“つぐ”を発見する機会となるでしょう。



“sea sky” 2025-26“a/w Photo: Keita Goto(W)

富山県美術館開館10周年記念

## シンシナティ美術館展

～アメリカに渡ったヨーロッパの至宝～

2027年1月23日(土)－4月11日(日)

一般：¥2,000 (¥1,800)

大学生：¥1,400 (¥1,200)

一般前売り：¥1,800

※( )内は20名以上の団体料金

シンシナティ美術館 (アメリカ合衆国オハイオ州) は、創立1881年、米国で最も歴史ある美術館の一つで、73,000点以上の膨大で多彩なコレクションを有しています。本展では、セザンヌやモネ、ゴッホ、ピカソなど、19-20世紀のフランス美術を中心に、同館の誇る珠玉の名品84点をご紹介します。この時代、西洋美術の中心地は、パリでした。アメリカの芸術愛好家やコレクターも時代を先導するパリの芸術に魅せられ、その収集活動によって数多の作品が海を越えてアメリカへと渡りました。ゴッホが死の直前に手がけた作品の一つ《ボプラ林の中の二人》や、当時ヨーロッパで流行していた日本趣味を反映するティソの《日本の美術品を眺める若い女性》、抜けるような青空の下のセーヌ川を描いたスレーの《ブージュヴァル》など、ルーヴルやオルセー美術館所蔵の昔から日本でも紹介されてきた作品群とはまた異なる、巨匠たちの知られざる絵画や彫刻が、遠く離れたアメリカ中西部から富山にやってきます。このうち81点が初来日。本展では、美術史に名を残す芸術家たちの貴重な傑作を展示し、近代美術を巡る旅へと皆様をご案内します。



上:フィンセント・ファン・ゴッホ《ボプラ林の中の二人》1890年

下:ポール・セザンヌ《レモンのある青い静物》1875年頃